10月22日

武佐小学校の子どもたちが藍染めを体験

本市出身で人間国宝の染織家・志村ふくみさんの草木染を残そうと、地元の成田傳良さんが企画し、５年生 44 人が藍染めの体験をしました。

体験では、志村ふくみさんの孫で染師の志村宏さんが指導しました。子どもたちは柄を付けるため、事前に輪ゴムで縛っていたハンカチを藍の染料に浸しました。水洗いをし輪ゴムを外すと、丸や放射線状などさまざまな模様があらわれ、子どもたちからは喜びの声があがりました。体験を終えて宏さんは「子どもたちのアイデアに驚きました。もの作りの楽しさを感じてもらえれば」と話しました。

11月2日

作戦を立てて得点につなげる フラッグフットボール体験教室

北里小学校体育館で、フラッグフットボールの体験教室が開催されました。フラッグフットボールは、アメリカンフットボールで行われる「タックル」に代わり、腰につけた「フラッグ」を取ることに置き換えた、より安全なフットボールです。

今回は、フラッグフットボール元日本代表・粟谷健礼さんの指導で、北里小学校の小学生 24 人が体験しました。子どもたちは小さなボールを脇に抱え、フラッグを取られないようにプレイごとに作戦を立て、ゴールラインを超えた時は最高の笑顔でした。子どもたちは、「作戦を立てて点を取れたのが楽しかった」「フラッグを取るのは難しかったけど楽しかった」話していました。

10月23日

でっちくんに妹が誕生！

八幡中学校生徒会のキャラクター「でっちくん」の妹「でっちちゃん」が誕生し、生徒会の 26 人が手作りの着ぐるみを全校生徒に披露しました。

でっちくんは、令和３年に市の名物「丁稚ようかん」をモチーフに誕生。生徒会新聞「輝け八中」の通巻 8,000 号を機に、当時の生徒会が考案し、近江八幡左義長保存会などの協力で着ぐるみを手作りしました。山村佳子生徒会長は、「お店とコラボしたり、地域の行事にでたりしたい」と今後の目標を話しました。

10月19日

沖島で消防団合同訓練を開催

沖島漁業会館周辺で火災が発生したとの想定に基づき、近江八幡消防署員と近江八幡市消防団員が消防艇・消救艇・自治会の船で沖島に渡り、火災防御訓練が行われました。また、火災が延焼したとの想定で、島民の避難誘導訓練と滋賀県防災ヘリコプターによる資機材搬送訓練・負傷者搬送訓練も合わせて実施しました。

沖島自治会長の茶谷昭一さんは、「沖島は災害が起きたときすぐに助けに来られない場所。今回の経験が実際の救助活動に生かされる」と力強く語りました。国内で唯一、淡水湖の有人島である沖島を守るため、必要な対策を確認する機会となりました。

西野康代 赤こんリポーター

野洲のおっさん・飛び出しぼうや

安土小学校の前がにぎやかだなあと思って見てみたら「野洲のおっさん」がいるではありませんか！「野洲のおっさん」は琵琶湖一周ごみひろい行脚で、これまでに 15 周延べ 3,000km を歩き、ごみ拾いだけでなく交通安全活動などにも取り組んでいる、滋賀県で人気のキャラクターです。お話を聞いてみると、近年子どもたちが巻き込まれる交通事故が増えてきており、特に登下校時の安全を守ろうと思い、この飛び出しぼうやを作ったそうです。親しみやすい「野洲のおっさん・飛び出しぼうや」を見て、子どもたち自身が交通ルールを意識し、安全行動を身につけるきっかけにしてほしいと願っています。

山田恵美 赤こんリポーター

八高１年生 家庭科での学びを地域の課題活動に生かす

10 月 25 日、イオンショッピングセンター２番街１階センターコートとはちはぴひろばで「だんないで子育てフェスタ 2025」が開催され、県立八幡高校１年生４人と家庭科教諭が家庭科での学びを生かし、地域課題解決につなげる「学校家庭クラブ活動」の一環として、ボランティアでフェスタをサポートしました。主に受付やクイズラリーを担当し、フェスタに訪れた親子に笑顔で受付やクイズラリーの説明をして、温かく迎えました。学校での学びを地域へとつなげ、子育てをみんなごととして社会でサポートする、素敵な活動だと思いました。

松村美沙枝 赤こんリポーター

20 年以上続く 外国ルーツの子どもたちへの学習支援

ワールドアミーゴクラブは金田コミュニティセンターを拠点に、外国ルーツの子どもたちへの学習支援を行っています。来日して間もない子どもや、日本で生まれた子どもたち。会話ができるようになっても、勉強のための日本語となると、高いハードルが立ちはだかります。そんな子どもたちに宿題のサポートや日本語の勉強などを 20 年以上行い、今では卒業生がボランティアに来るほどに。地域行事にも積極的に参加し、学区の文化祭では外国の料理を披露しました。ボランティアも随時募集されています。

向坂奈穂美 赤こんリポーター

手作りのあたたかさに触れ、心ゆるむ文化祭

11 月１日～３日に「第２回老蘇学区文化祭」が老蘇コミセンで開催されました。会場には､こども園や小学校､一般の人々の作品、ヨシ灯りなどがたくさん展示され、見応えのあるものになっていました。

手の込んだ一般作品は素晴らしく、子どもたちの作品からは一生懸命作った様子がうかがえ、心がほっこり。体験コーナーでは、びゅんびゅんゴマや割り箸てっぽう作り、射的に子どもたちは夢中でした。

また、健康推進協議会が用意した減塩の具だくさん味噌汁と丁字麩ピザをその場で味わい、地域の手作りの温かさを感じる一日となりました。